

こひつじ文庫だより 61号

2021 年 7 月

**みなさん、おげんきですか？
みなさんは、どんな本が好きですか？
こひつじ文庫のたくさんのおもしろい本に
あいにくてくださいね。**

「幸せの記録 読み継ぎたい絵本ランキング」を紹介します。
日本経済新聞に掲載されたものです。

どの本も、こひつじ文庫にありますよ。

1位 ぐりとぐら

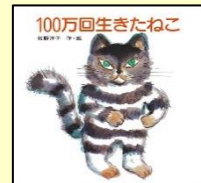


2位 はらぺこあおむし

3位 おおきなかぶ



4位 100万回生きたねこ



5位 スイミー



6位 いないいないばあ

7位 スーホの白い馬



8位 ちいさなうさこちゃん



9位 ちいさいおうち



10位 からすのパンやさん

「はらぺこあおむし」を描いたエリック・カールさんが、5月になくなり世界中の人々が別れをおしめました。

この中にあなたの好きな本はありますか？

『ちいさなうさこちゃん』シリーズ

ディック・ブルーナ ぶん・絵
いしいももこ 訳
福音館書店



こひつじ文庫に「ちいさなうさこちゃん」シリーズが7冊増えました。誰もが一度は手にとり、目にしたことがある絵本です。シンプルな文章とはっきりした絵は、ことばがわかる前の赤ちゃんへのよみかかせにもぴったり。定番だけでなく「うさこちゃんとたれみみくん」「うさこちゃんときやらめる」などもおすすめです。

『新幹線しゅっぱつ』

鎌田 歩 作
福音館書店



子どもはのりものの本が大好きです。でも最近遠くに出かけることが少なくなり、おとなでものりものの本をみると、わくわくするのではないのでしょうか。最新型の新幹線や、行ったことのない場所への想像をふくらませ、家族で語りあってみるのも、よいでしょう。同じシリーズで「路線バスしゅっぱつ」「飛行機しゅっぱつ」もあります。

『クマよ』

星野道夫 文・写真
福音館書店



行ったことのない場所に行ってみたくなくなったとき距離も時間も飛びこえて、一瞬で違う世界につれていってくれる絵本。

豊かな大自然、ゆったりと歩くクマの親子。導いてくれるのは、自然を愛した星野道夫の詩。子どももおとなも、美しい夕陽を、広大な草原を、星空に広がるオーロラを、手元にひきよせて、楽しんでください。

『みずとはなんじゃ？』

かこさとし 作
すずきまもる 絵
小峰書店



わたしたちは、身近なものを粗末にしたり、大切にすることを忘れがちです。「水」は、まさにその典型でしょう。人間の体のほとんどは、水がしめているということは、良く知られています。いったい何パーセントくらいでしょう？また、水は海や川にどっさりありますが、海や川のごれが、はげしくなっていることも、わたしたちは知っています。

『だるまちゃんとてんぐちゃん』や『からすのパンやさん』の作者、かこさとしさんの科学者としての目を通して、わかりやすく記されたこの本は、子どもだけでなく大人たちへの、作者最後の大切なメッセージだと思います。

こひつじ文庫は

毎週土曜日 午後2時から4時まで開館しています。
ひとり5冊まで1か月貸出しています。

ただし緊急事態宣言、まんえん防止等重点措置
のときは

開館はせず、返却ボックスでの返却のみとなります。

『にあんちゃん』

安本末子 作
角川文庫



今から68年前、佐賀県の炭鉱で父母をなくした4人兄妹の末っ子末子が、父の死後、小学3年生から4年生までの1年9か月にわたって書いた日記。極貧の中でも兄妹を敬愛し、学校へ行くのを楽しみ、友だちとのささやかな楽しい毎日の出来事や気持ちをつづっている。末子の素直な心や、愛の深さに心が清められ、生きる力をあたえられる気がする。貧しさの故に住む家がなくなり、兄妹がバラバラになるが、末子が友だちの家族と住むことになるところで終わっている。

こひつじ文庫のホームページはこちらから

<http://www.shinkou-kyoukai.org/>